

鎧に寄生し
装着者を強制的に戦わせる
『装触種』

仲間を守るため
敢えてその力を纏い
戦ったが…

敵軍の物量に敗れ
無様にも虜囚の身と
なってしまった……

ギョッ!

グッ!

グッ!

グッ!

グッ!

グッ!

あれから…
何日経った——





——ッ♡
き…来た…ッ

む…無理矢理
私を動かそうと…ッ
…鎧が…ッ♡

また
クリを…ッ♡

腰がッ♡
引いてしまう…ッ♡
逃れられる筈も
ないのに……ッ!!

なッ…あああッ♡
何が起きたッ!?

こ…これは――

ヒン

しゅわ
しゅわ
しゅわ

は

ん
ん
ん

鎧の仕業じゃない…ッ
触壁までが…とうとう…ッ

あ

ズ
ズ
ズ

ズ
ズ
ズ



す…既に
無力化されている
敵兵を…これ以上…ツ
どうしよう…ツ

まッ…拙いッ♡
装触種が…ッ?!

わたくし
傀儡を奪われまいと
侵蝕度を…あッ♡…上げ…ッ

イッ♡♡…ぐ…♡

カッ♡…快樂で♡
頭の中…♡
掻き…回…♡

の…吞まれて…
なる…ものか…♡

例えこの身が
死に体であろうと♡

さ…最期まで
戦士として—





しっ♡子宮ッ♡
圧し…潰れ…ッ♡

腰…引いちや
駄目だ…ッ♡

死ぬッ♡
クリと子宮…ッ♡
両方なんてッ♡

腰を下ろせ…ッ♡

下ろせええッ♡



——出来ないッ♡

クリが
辛過ぎで♡

勝手にッ♡
腰が
逃げるッ♡

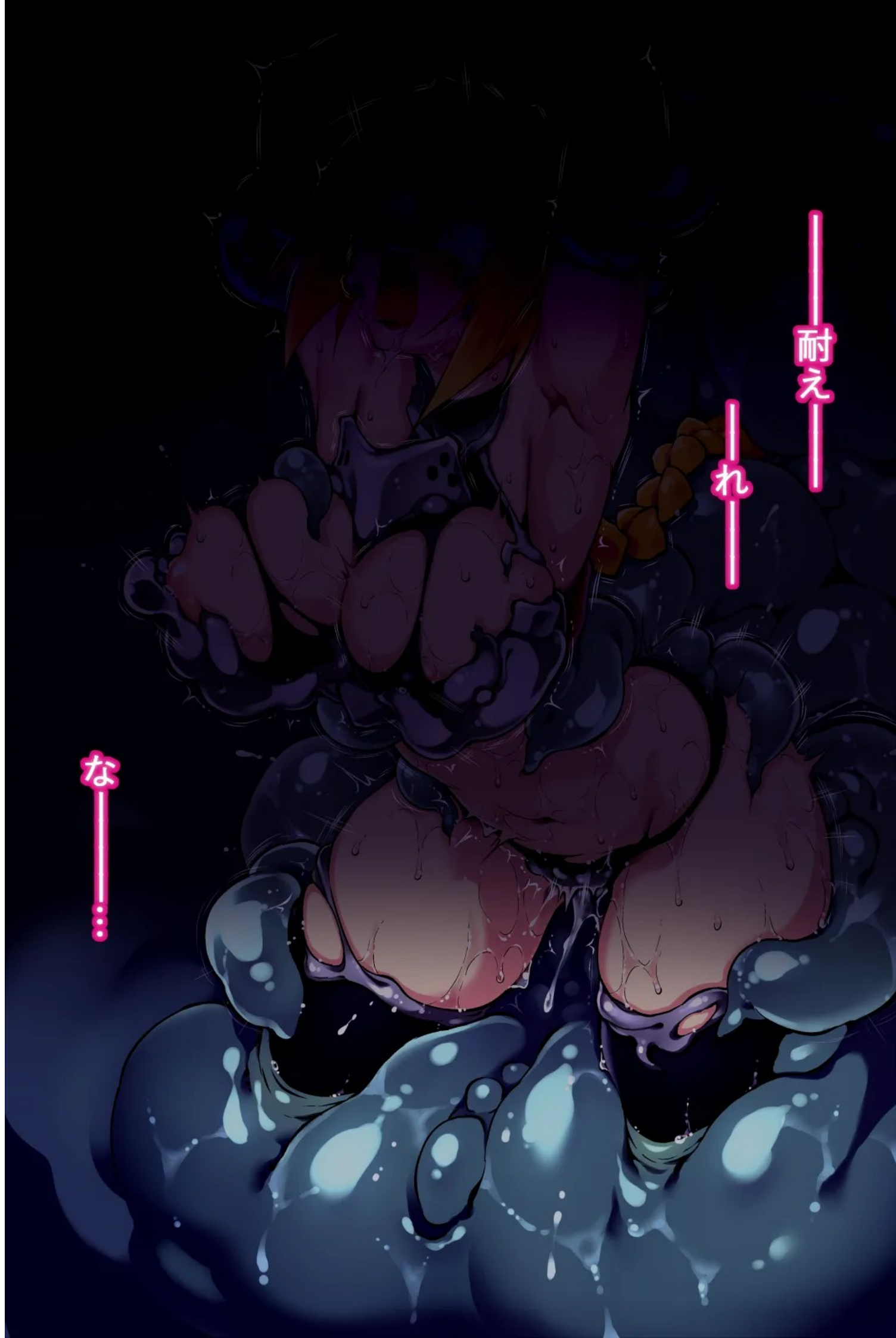
逃げて
しまっ♡

無理ッ♡
こんなの——

耐え

れ

な



——週間後



触壁はその末端を
鎧へと伸ばし、
女戦士の膺内と共に
装触種への侵蝕を
開始していた。

身体の支配権を
得る為、女の泣き所で
繰り広げられる
両者の綱引き…
齎される膨大な快樂で
彼女の自我は
もはや風前の灯火
であった…。